

第7回 鶴川西地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2024年10月21日（月） 9：30～11：00	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 ランチルーム（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	岩永委員、小池委員、近藤委員、沼尻委員、猪狩委員、柄澤委員、功刀委員、竹村委員、大隅委員、田中委員、仲村委員、浅沼委員、◎鰐坂委員、○悴田委員（◎会長 ○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、教育センター、防災課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第6回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1 説明）

2 報告事項

（1）学校統合時に在籍する児童（在校生）への特例措置について

学務課 （資料2－1 説明）

委員 鶴川四小の児童の多くは真光寺中に進学するが、鶴川二中に進学したい意思がある家庭は、小学校入学時点で鶴川三小を選択していることがある。今回の特例措置は、小学1年生の時点で鶴川三小に通学していた児童であれば、住んでいる場所などの条件なしに鶴川二中へ進学できるということか。

学務課 そのとおり。

委員 例えば鶴川四小に5年生までいて、6年生のときに鶴川中央小に統合、そのタイミングで鶴川三小の仮校舎に行き、中学を選択する時点で、真光寺中ではなく鶴川二中が良いとなった場合、通学区域緩和制度による抽選になるのか。

学務課 通学区域緩和制度になる。鶴川二中の受け入れ枠を超えていれば抽選となる。

委員 それは良くないと思う。不公平と言う人が出てくる。もし鶴川二中に行きたい児童がいるなら全員行けるようにしてほしいと言う人が出る。もしそれが駄目なら、鶴川四小学区に住んでおり、小学1年生のときから鶴川三小に通学していた児童も全て抽選にして欲しい。

また、鶴川二中は、一番多いときに24クラスあった。今すぐ、真光寺中の生徒が鶴川二中に統合しても教室数は足りる。プレハブ校舎を建てなくても大丈夫。そのくらいの度量を持ってやらないと、絶対、親たちは不公平だということで納得しないので検討して欲しい。

学務課 発言の意図は十分把握しているが、保護者の意図として、元から鶴川二中に進学したくて学区外通学している子と、もともと鶴川四小で鶴川二中に進学したい子は分けるべきと考えている。そのために、このような制度をつくった。これからも、意

見をもらいながら進めていきたい。

委員 子どもが鶴川中央小となった後に鶴川東小とも統合する。統合時に何人の子どもが鶴川東小に残るか人数を把握するのか。

学務課 本町田地区では、在校生に対して進学先の人数を公表した。この学校に何人行くという情報について学校だより等を用いて公表する予定。

委員 鶴川西地区の場合は、基本的に新校舎が完成した鶴川中央小に行くと思うが、鶴川中央小から鶴川東小に残る場合も数字を出してから、どちらの学校にするかを選ぶのか。

学務課 鶴川中央小の在校生は、鶴川中央小に残るか鶴川東小へ転校するかの両方を選択することができる。人数についても公表することになると思う。

（２）鶴川第三小学校と鶴川第四小学校における事前交流について

会長 （資料２－２説明）

委員 特別支援学級のかわせみ学級、どんぐり学級の交流はどこかに含まれるのか。

会長 鶴川二小と鶴川四小には特別支援学級があり、鶴川中央公園で一緒に遊んだり特別支援学級同士の交流はある。

委員 鶴川二小と鶴川四小の特別支援学級同士の交流する機会は教育課程の中で存在する。特別支援学級の児童と通常の学級の児童同士は学年の中で交流をしている。４年生の特別支援学級の児童が４年生の通常の学級に行つての勉強や、体育の発表をしている。そのため、今後は各学年の交流授業等に特別支援学級の児童も含めて交流する等はあると思う。

会長 今後、そのような形で交流ができれば進めていきたいと思う。

委員 過去に市内で統合した学校はどのような混乱が生じたのか。私は混乱があったという話を聞いたことがないが、もし教育委員会で知っていれば、過去の例から準備することができると思う。子どもたち同士はすぐに仲良くなるというような事例があれば、心配することはないということを保護者会等で説明できれば保護者は安心すると思う。

３ 検討事項

（１）新たな小学校の校歌・校章の制作について

新たな学校推進課 （資料３－１、資料３－２説明）

〔 ワークショップ 〕

グループＡ 校歌・校章の意見募集結果が、小学校ごとで意見の数が異なっているところが気になった。統合に伴う各校の温度差が生じたのではないかと意見があった。また、集まった意見の数が少ないので、校歌・校章の制作者との交流会の前後で、改めて子どもたちからの意見を聞き直したり、まとめたりする作業が必要ではないかとの意

見があった。また、子ども達や地域の方からの校歌のフレーズや校章のイメージでは、両校で共通する言葉を大事にして欲しいとの意見があった。

校歌の制作者が教員をされていた方という点はすごく良いとの意見があった。校歌は子どもたちが歌うので、子どもたちでも歌いやすいメロディーでなければ意味がない。そういった点を考えてくれる制作者で良かったという意見があった。

制作者との交流会では、子どもたちが参加している意味をしっかりと理解し、子どもたちが関わることを大事にしてほしいとの意見があった。校歌について言えば、その言葉がどういう意味で使われているのか、例えば「ふるさと」という言葉は、古い使い方になっているが、みんなが戻って来ることができる場所というような話を伝えることに意味があるのではないかと。鶴川地域は祭りも盛んで、子どもたちも戻って来る同窓会のような場所になっている。そういう言葉の意味も含めて伝えられるような校歌になればいいとの意見があった。

あと1つ大事にしてほしいこととして、子どもたちの意見なので、そこに大人の意見や、変な先入観を持たないこと。また、制作者にも、誘導尋問とならずに、子どもたちの素直な意見を聞けるやり方を意識してほしいとの意見もあった。

交流会については、代表の子との場だけでなく、事前に話し合っているクラスの雰囲気等をオンライン等で制作者に見てもらえるといいとの意見もあった。

また、最後のお披露目会だけに制作者が出てくるのではなく、事前に全校児童に紹介できるような機会を学校と調整しながらできると良いというアイデアも出た。

グループB

校歌・校章のフレーズについて、今の校歌に思い入れがある児童が多いけれども、新しい校歌・校章になるので、今までの校歌・校章にこだわる必要はないという意見があった。当然、進め方にはなるが、今の校歌の大事なところだけではなく、新しい学校に期待するところ等も含めて議論をし、進められるといいとの意見があった。

地域の方からの意見が少なかったことから、少し統合への関心が低いという印象を受けた。

交流会に関することとして、現在の3年生が今回の交流会のメンバーの中では一番低い学年になり、事前に学校で出た意見を集約できるのか不安であるという意見もあった。こちらについては、朝の会や帰りの会等の時間を用いながら、子たちの意見を聞き、学年で集め、代表の児童が交流会に持っていく程度であればいいという意見があった。

日程に関することでは、放課後となると、保護者も参加する子どもたちがどのような役割になるの、実際の作業内容を整理して保護者にも伝え、募集できるといいとの意見もあった。

また、今の校歌には、その学校の教育理念が含まれているので、新しい学校の教育理念はまだ決まっていないと思うが、子どもたちから出てきた意見だけではなく、新しい学校の教育理念等も踏まえ、考えていけるといいとの意見もあった。

今回、新しい校歌・校章をつくれる機会に共感してくれ、学校みんなの意見を伝え

られる児童・生徒に参加して欲しいという意見もあった。

会長 （閉会のあいさつ）